

## 伊豆東岸定置網における主要魚種の

### 令和2年上半期の漁況経過と下半期の漁況予測

#### 1 令和2年上半期(1～6月)の経過

##### (1) 総漁獲量

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における令和2年1～6月の魚種別月別漁獲量を表1に示しました。総漁獲量は1,765トンで、前年の1.4倍、平年(1982～2019年平均値)の83%でした。多獲された魚種は、マイワシ、さば類、ブリ、スルメイカ、カタクチイワシでした。

##### (2) 魚種別漁獲量(ブリ・マアジ・さば類)

###### (ア) ブリ

ブリ(ぶり、わらさ、いなだ、わかし)の漁獲量は278トンで、前年比1.1倍、平年比1.4倍でした。銘柄別にみると、ぶりは90.4トンで、前年比56%、平年比89%、わらさは184トンで、前年比2.2倍、平年比2.2倍、いなだは1.5トンで、前年比52%、平年比12%でした。わかしは2.3トンで、前年比55%、平年比4.5倍と、平年を大きく上回りました。

漁獲されたブリは、2月は40cm前後のいなだ、3～4月は65～85cmのぶり・わらさ、5月は55cm前後のいなだおよび15～20cmのわかし、6月は65～75cmのわらさでした。

###### (イ) マアジ

マアジ(じんだ銘柄を除く)の漁獲量は18.0トン、前年比59%、平年比4%と、極めて低調な漁獲が継続しています。じんだ(小型0歳魚)の漁獲量は1.8トン、前年比3.7倍、平年比30%と低調ではありますが、前年を上回りました。

漁獲されたマアジは、1～4月は尾叉長17～19cmの1歳魚、5～6月は8～12cmの0歳魚および20cm前後の1～2歳魚でした。

###### (ウ) サバ類

マサバの漁獲量は90.0トンで、前年の52%、平年の99%でした。月別にみると4月に漁獲量が多く、前年比1.3倍、平年比1.4倍であり、1～2月も前年、平年を上回りました。一方、3月および5～6月は前年、平年を下回りました。漁獲されたマサバは尾叉長30～40cmおよび15cm前後の0歳魚(4～6月)でした。

ゴマサバの漁獲量は292トンで、前年の1.1倍、平年の83%でした。月別に

みると5月に漁獲量が多く、3～4月を除き、前年を上回りました。漁獲されたゴマサバは尾叉長30～40cm および、15cm前後の0歳魚(4～6月)でした。

さばっこ(マサバ、ゴマサバの小型0歳魚)の漁獲量は38.2トンで、前年比2.0倍、平年比1.3倍と前年、平年を上回りました。

表1 伊豆半島東岸大型定置網における令和2年上半期の月別魚種別漁獲量(kg)

魚種名(銘柄)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	総計
ブリ(ぶり)	112	46	17,038	73,167	51	16	90,431
ブリ(わらさ)	674	80	1,753	159,394	2,184	19,478	183,564
ブリ(いなだ)	103	295	36	315	161	603	1,512
ブリ(わかし)	1,285	699	72	55	139	15	2,264
ヒラマサ	17	0	16	2,974	1,126	25	4,157
カンパチ	98	158	15	4	48	312	635
マサバ	10,705	10,271	5,428	33,166	25,218	5,250	90,036
ゴマサバ	17,035	20,948	7,087	69,876	135,312	41,912	292,170
さばっこ	10,326	7,316	586	440	13,289	6,232	38,188
マイワシ	18,111	374,722	93,082	129,484	482	109	615,990
カタクチイワシ	32,634	4,992	2,834	10,369	938	11,057	62,824
ウルメイワシ	5,986	4,761	40	1	10	0	10,798
マアジ	933	2,244	1,454	3,157	3,281	3,749	14,818
マアジ(小)	766	225	156	20	199	1,836	3,201
マアジ(じんだ)	6	3	7	0	560	1,272	1,848
オアカモロ	25,214	9,199	67	0	1	210	34,690
マルソウダ	24,064	4,113	454	1,872	983	3,038	34,524
イサキ	840	482	1,781	2,354	6,791	3,822	16,069
シイラ	15	0	0	64	4,996	4,044	9,118
イシダイ	723	2,571	2,830	955	172	56	7,307
ムツ	729	1,244	516	334	1,868	1,996	6,686
トビウオ	4	2	5	31	1,746	4,503	6,290
サワラ	154	58	2,115	2,655	434	160	5,576
メジナ	859	254	628	1,502	809	483	4,535
サンマ	4,341	16	0	1	5	0	4,364
マルアジ	7	0	0	56	29	3,399	3,491
フグ類	318	869	241	131	743	1,008	3,310
ヒラメ	169	593	559	1,046	723	209	3,298
マダイ	96	148	535	991	995	359	3,124
ホウボウ	236	760	993	687	264	124	3,063
ウマヅラハギ・大中	116	422	913	1,346	160	52	3,009
アカカマス	719	263	202	33	1,206	534	2,956
クロマグロ	145	1,085	616	80	323	130	2,379
ウスバハギ	243	342	281	631	510	116	2,124
スルメイカ	5,976	7,504	58,299	68,560	20,218	4,099	164,656
スルメイカ(こいか)	0	0	13	0	446.4	30.8	490
ヤリイカ	182	882	557	141	163	91	2,015
アオリイカ	278	82	102	876	1,492	453	3,284
その他	4,847	3,192	3,865	3,900	4,588	5,639	26,031
総計	169,066	460,839	205,174	570,667	232,660	126,420	1,764,826

## 2 令和2年下半期(7～12月)の漁況予測

水産・海洋技術研究所伊豆分場は、神奈川県水産技術センターと共同で、令和2年下半期(7～12月)の伊豆東岸定置網(相模湾)における漁況を表2(※スルメイカは伊豆分場独自に予測)のとおり予測しました(令和2年8月28日発表)。

表2 伊豆半島東岸大型定置網における令和2年下半期の漁況

海況	黒潮は期間を通してA型で推移する。 沿岸水温は「平年並み」～「高め」で推移する。
マアジ	来遊量は前年を上回るが低調。魚体は尾又長16～18cm。
マサバ	来遊量はゴマサバに混じる程度。魚体は尾又長30cm前後。
ゴマサバ	来遊量は前年を上回る。魚体は尾又長30cm以上。
マイワシ	来遊量は前年を下回る。魚体は被鱗体長10～15cm。
カタクチイワシ	来遊量は前年並み。魚体は被鱗体長9～11cm
ブリ	来遊量は前年並み。わかし・いなだ銘柄主体。
スルメイカ	来遊量は低調な前年並み。

### ・マアジ

近年、マアジ太平洋系群の資源は低調に推移しています。伊豆東岸定置網における漁獲量についても、2010年頃より減少傾向で推移しており、2020年上半期は、不漁であった1980年代と同レベルの低水準となっています。じんだについても漁獲は低調ですが、2020年上半期は前年を上回りました(前年比3.7倍)。

下半期には、尾又長16～18cmの0歳魚主体に、20cm前後の1歳魚も漁獲されます。下半期の漁獲量は同年上半期のじんだ漁獲量と比例関係にあり、2020年上半期のじんだ漁獲量が前年を上回ったことから、下半期の来遊量は前年を上回ると予測しました。

### ・マサバ

マサバ太平洋系群の資源は近年増加傾向で推移していますが、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年を下回りました。

2001年以降、下半期の漁獲量は10～20トンと少なく、概ね尾又長30cm前後の1歳魚以上主体に漁獲されています。そのため、2020年下半期の来遊量はゴマサバに混じる程度(ゴマサバ漁獲量の1割程度)と予測しました。

### ・ゴマサバ

ゴマサバ太平洋系群の資源は近年減少傾向で推移していますが、伊豆東岸定置網

における上半期の漁獲量は前年並みでした。

2001年以降、下半期は概ね尾叉長30cm以上主体に漁獲されています。近年の傾向として上半期と下半期の漁獲量は比例関係にあります。2020年上半期の来遊量は前年並みでしたが、7月の漁獲量が前年を上回ったことを加味し、下半期の来遊量は前年を上回ると予測しました。

#### ・マイワシ

マイワシ太平洋系群の資源は近年増加傾向で推移しており、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年を上回りました。

近年、下半期には被鱗体長10～15cmの0歳魚主体に漁獲されています。相模湾における春季マシラス漁獲量とマイワシ0歳魚漁獲量は比例関係にあり、2020年3～5月のマシラス漁獲量は前年を下回ったことから、下半期のマイワシ来遊量は前年を下回ると予測しました。

#### ・カタクチイワシ

カタクチイワシ太平洋系群の資源は近年減少傾向で推移していますが、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年を上回りました。

近年、下半期には被鱗体長9cm未満の未成魚主体に9～11cmの小型成魚も漁獲されています。例年、下半期の漁獲量は概ね100トン前後で推移していることから、2020年下半期の来遊量は前年並みと予測しました。

#### ・ブリ

ブリの資源は近年高水準で推移しており、伊豆東岸定置網における漁獲量も高い水準にあります。

下半期は、わかし・いなだ銘柄主体に漁獲されており、同銘柄の上半期と下半期の漁獲量は比例関係にあります。2020年上半期のいなだ・わかし銘柄の漁獲量は前年を下回りましたが、7月のわかし・いなだの漁獲量が前年を大きく上回り好調であることを加味し、2020年下半期の来遊量は前年並みと予測しました。

#### ・スルメイカ

伊豆東岸定置網における漁獲の主対象は、冬季に道東・東北海域から南下してくるスルメイカ冬季発生系群です。同資源は近年低調に推移していますが、伊豆東岸定置網における上半期の漁獲量は前年を上回りました。

伊豆東岸定置網における盛漁期は12～2月ですが、不漁期（資源・漁獲量低水準期）は3～5月が盛漁期となります。現在、資源回復の兆候は見られておらず、また、2020年8～9月の常磐～三陸海域の来遊量は前年並みと予測されていることから、2020年下半期の来遊量は低調な前年並みと予測しました。

(鈴木勇己)